

授業科目名・形態	ソーシャルワーク演習V 演習	必修・選択の別	選択	単位数	1
科目担当者氏名	石岡 和志・林 宏二・山田 克宏	実務経験の有無	有	開講期	4年前期

【授業の主題】

相談援助に係る知識と技術について相談援助実習における学生等の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行い、実践的な知識と技術として習得できることを目指す。

実習を振り返り、学んだこと、もっと学びたかったこと、学ぶ必要があること等自分の学びの課題と目標を明らかにする。理論と実践の関係について考えられるようにする。

【到達目標】

- 1) 実習での学びや気づきを振り返り、事後学習としての学びの課題を整理できる。
- 2) 利用者や職員との目的をもったコミュニケーション・かかわりについて、その重要性について理解できる。
- 3) 社会福祉士の専門性について、実習での学びと経験を活かして、現実と課題について考えることができる。

【授業計画・内容】

- 第1回 オリエンテーションとグループ決め
- 第2回 実習での学びを振り返る・活かす①
- 第3回 実習での学びを振り返る・活かす②
- 第4回 実習での学びを振り返る・活かす③
- 第5回 利用者との関わりからの学びを振り返り活かす①
- 第6回 利用者との関わりからの学びを振り返り活かす②
- 第7回 利用者との関わりからの学びを振り返り活かす③
- 第8回 利用者との関わりからの学びを振り返り活かす④
- 第9回 利用者を理解し、ニーズを把握し、支援すること①
- 第10回 利用者を理解し、ニーズを把握し、支援すること②
- 第11回 スーパービジョン
- 第12回 人と環境の接点・相互作用
- 第13回 社会福祉士の専門性と社会福祉援助に関わる他の専門職について
- 第14回 ソーシャルワーカーの価値（倫理・理念・原則等）
- 第15回 振り返り

【授業実施方法】

演習

【授業準備】

関連する科目の講義内容で学んだ制度等を再確認しておくこと。

【主な関連する科目】

ソーシャルワーク論、ソーシャルワーク演習

【教科書等】

日本社会福祉士養成校協会『社会福祉士相談援助演習』中央法規出版

【参考文献】

その都度紹介する。

【成績評価方法】

授業態度等 10%、レポート 30%、ロールプレイ等 60%で総合的に評価する。60%以上の得点で合格とする。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

福祉施設で生活相談員として相談業務を経験

相談援助の経験を活かし、その人らしい生活ができるように必要な福祉サービスのあり方を伝えたい。

【学生へのメッセージ】

実習等で経験してきた様々な援助場面を振り返り、社会福祉士の専門性について、実習での学びと経験を活かして、現実と課題について考えられることが将来の進路とも繋がってくる。グループ討議や事例検討を中心とする参加型授業形態なので積極性を発揮してもらいたい。